

## こぼれ話4

### 藤蔵・勝五郎生まれ変わりの記念日

江戸時代の後半、文政五年（1822）十一月、中野村（現八王子市）の勝五郎という少年（八歳）が、自分の前世は程久保村（日野市）の藤蔵だったと、行ったことのないはずの程久保村の藤蔵の家の様子を語り、それが全て本当だったことから、大評判になりました。

前世の記録を持つ子供は、世界中に存在するようで、これを専門に研究している学者もいます。この分野の研究をする人々の中で、勝五郎の生まれ変わりの物語が重要な意味を持つのは、平田篤胤や池田冠山といった当時の一流の学者や文人が、勝五郎本人から聞いたことを詳細に記録し、そのまま現在まで伝えられてきたという点にあります。



▲中央大学構内に残る「勝五郎の道」  
祖母と程久保村を訪ねた時に歩いた旧道です